

LPAの会からのお役立ち情報

令和3年8月豪雨災害体験談②



ここ数年、全国あちこちで地震や台風、大雪など災害のニュースが多く報道されるようになりました。しかも、「今までこの辺ではこんな事なかったのに」という声も多く聞かれます。災害はもう他人事ではない時期にきているのではないのでしょうか。災害にあった場合、とにかく自分自身の安全の確保が最優先です。避難経路や避難場所など、日頃から確認しておきましょう。

自然災害により被災した時には、市町村から罹災証明書を発行してもらいます。各種被災者支援制度を利用する際や、保険金の請求をするときに必要となる場合があります。被害にあった場所などの写真を撮っておく事も忘れてはいけません。特に、水害の時などは、どの高さまで水が来たのか証明するためにも撮影しておくことをお勧めします。

風水害、地震、大雪、落雷などの自然災害に対しての備えは、いま加入している保険や共済で大丈夫でしょうか？火災保険に加入している方は多いと思います。火災保険（共済）だけの加入では保障されない災害もあります。地震などがそうです。火災保険にプラスして保障を充実させる「自然災害保険（共済）」があります。たとえば地震などの時、「地震による損壊・火災」「噴火による損壊・火災」「津波による損壊」など、風水害も保障されます。「突風・竜巻」「台風・暴風雨・豪雨・長雨」「洪水・高波・高潮」「降雪・雪崩・降ひょう」などです。今、何の保障が必要なのか見直してみたいかがでしょうか。

内閣府が発表した高い確率で発生が予想される地震で、青森県は日本海溝・千島海溝周辺での大規模地震を警戒しなければいけません。

東北・北海道で最大19万9千人が死亡するとの被害想定が公表されました。冬の深夜など特に被害が多くなる事が懸念されます。また、避難後の低体温症で死亡リスクが高まるともいわれています。

昨年夏、水害被害にあった時、玄関の所に備蓄してあった食料や飲料水など持って出る事はできませんでした。災害の種類や状況によつては身一つで逃げなければならぬのだと思いました。高齢の家族がいるので、毛布1枚とバスタオルだけは持ちました。避難先ですぐに毛布でくるみました。夏とはいえ雨に濡れて寒かったようです。災害時の備蓄の中に毛布1枚とバスタオルのセットを加えてみてはと思います。持ち出しやすいように、別の袋にして保管する事をお勧めします。

災害が起きてからでは手遅れになってしまいます。早めの備えが大切です。

執筆者 LPAの会 M・O



カンタン小物

外したマスクをなくさない
マスクストラップ



材料

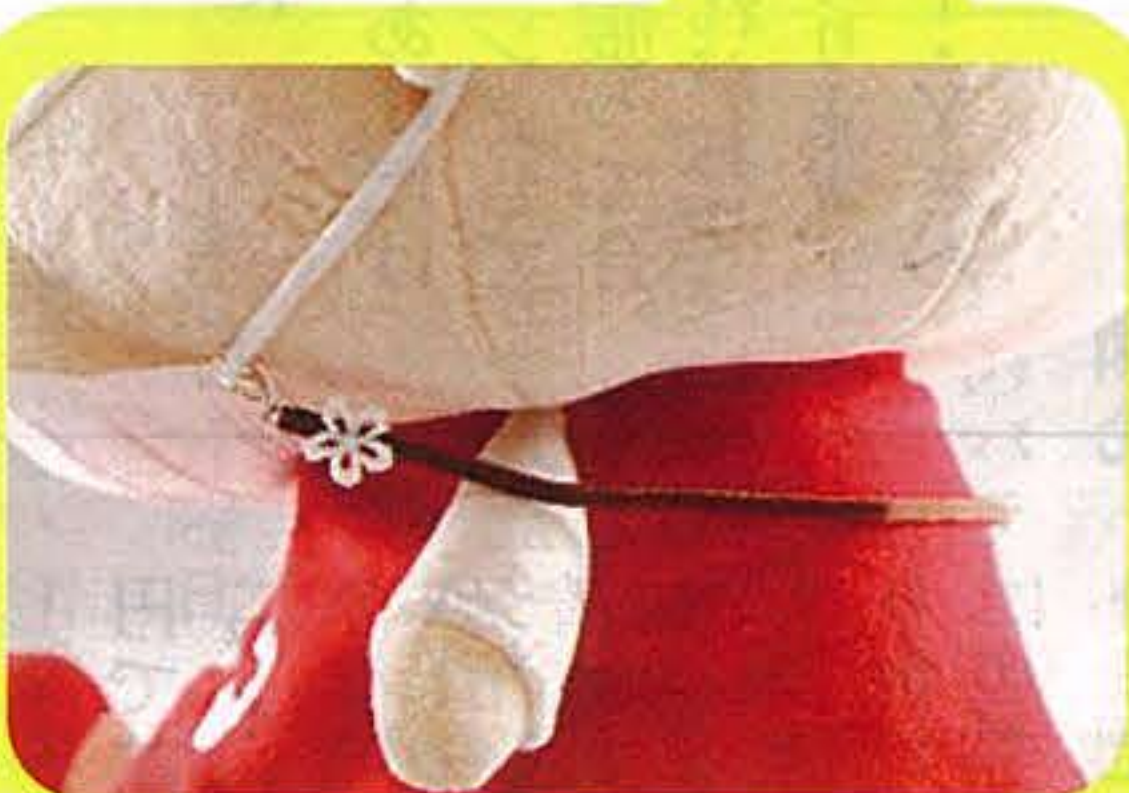
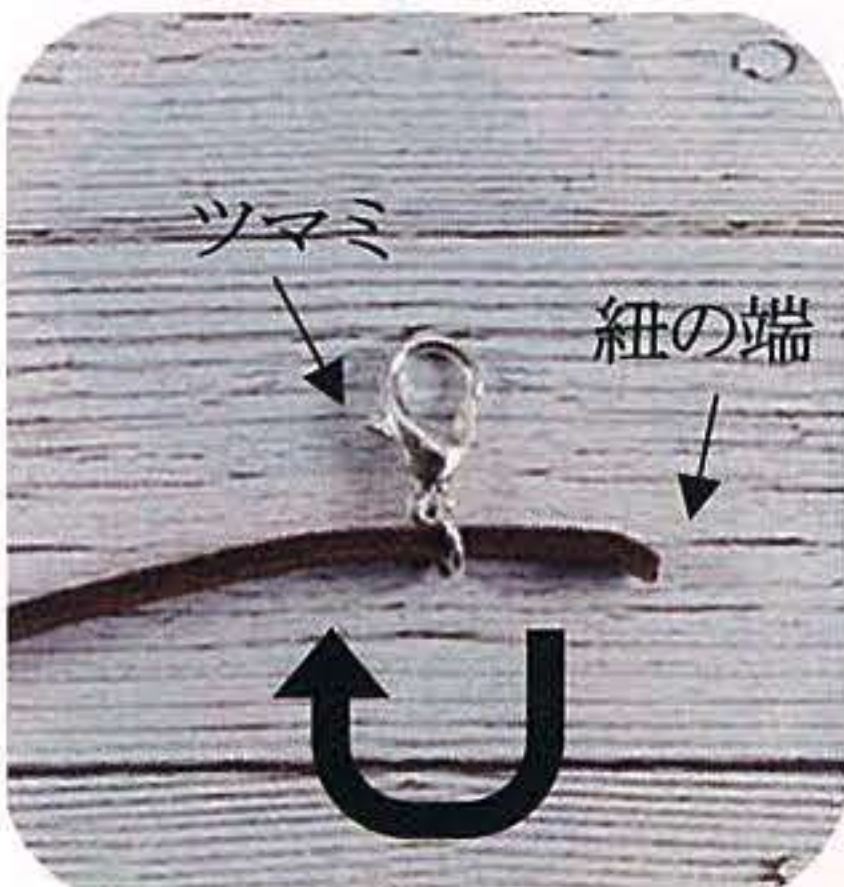
紐（合皮）約45cm
カニカン2個、丸カン2個
ハサミ 接着剤 プライヤー



カニカン（上）
丸カン（下）

①丸カンをプライヤーで開き、カニカンのカニに通したあと、丸カンを閉じます。

②紐の端から2cmのところまで丸カンを通し、丸カンから紐を折り返します。この時、返した端が内側を向くようにするため、ツマミが端と逆を向くように通します。



③折り返したら、紐と紐が重なる部分に接着剤を塗り、指でおさえて接着します。

④もう片方の端も②、③の手順で紐とカニカンをつければ完成です。



一時的に外したマスクの置き場を考えなくていいので、長時間マスクをしていると耳の裏が痛くなる方にオススメです。

※材料は100円ショップで揃えられます。カニカンと丸カンは、セットになっているものがありました。
※ワンポイントや、紐をビーズチェーンや組みにするなど、アレンジ次第でいろいろなマスクストラップが作れます。

Q&A 拡大版

離乳食などが載った、子どもがいる家庭を対象とした別冊カタログが欲しいです。

ご期待にお応えすることができず誠に申し訳ございません。

本誌Weekでの離乳食の取扱いは2018年10月から1ページでスタートし、その後2020年度から2ページとなり現在に至っております。主な内容としては、以前全国的な組合員アンケートで生協への離乳食関連商品への期待として、「毎日のことなので0から作るのは大変、かといって出来るものも毎日では避けたら、ちよつと手を加えただけで作れ、いろいろ変化をつけられるものがほしい。」のご意見が多かったことから、そのような「半加工で応用のきく商品」（冷食ポーションタイプのおかゆやピュレ、細かい刻みの冷凍野菜、粉末野菜、粉末状のだし等々）を中心に、おやつや雑貨、幼稚園児のお弁当用おかず等をご案内しております。しかし、いずれも2ページのご案内のため幅広いご案内には至っておりません。ご指摘いただきましたように別冊で専用の小冊子のように別冊でお応えします。

ようなカタログを作成し、必要な方にお届けできるとほんとうに良いのですが、宅配の場合、冷凍品・冷蔵品・常温品ともに、それぞれ専用の商品セットセンターがあり、そのセンターごとに集品できる品目数に限りがございます。現在、その上限数一杯に商品分野ごとに振り分け毎週のご案内を作成しております。その中で現状といったしましては、離乳食関連商品については、当面は今の規模を継続し、商品内容や扱い頻度の見直しをさらにを行い、少しでもよりお役にたてる品揃えや頻度に高めていきたいと考えております。せっかくの貴重なご意見を賜りながら、速やかにご要望にお応えできず誠に申し訳ございません。このたびのご意見を真摯に受け止め、ご利用いただく組合員様のご要望や願いが少しでも実現ができますよう、日々努力してまいります。

もし、具体的にこのような商品が不足、もっと必要という商品がございましたらお聞かせいただけましたら幸いです。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

